

会議の名称	令和2年度 第1回茅野市こども・家庭応援会議		
開催日時	令和2年8月20日(木) 19時00分～20時20分		
開催場所	茅野市役所 議会棟大会議室		
出席者	委員：山田委員長、両角副委員長、戸川委員、宮下委員、大作委員、小坂委員、大久保委員、守屋委員、降旗委員、田島委員、小山委員（河西さん代理出席）、濱委員、向川原委員、牛山委員、味澤委員 市：山田教育長、有賀こども部長、井出地域福祉課長、斎藤健康づくり推進課長、五味こども課長、柳澤幼児教育課長、五味学校教育課長、北澤幼児教育係長、立石教育総務係長、北澤学務係長、熊谷こども・家庭支援係長、長田こども・家庭相談係長、竹内発達支援センター次長、湯田坂やまびこ園長、横内こども館長、宮下こども係長、有賀こども係主査		
欠席者	委員：伊藤委員、原田委員、櫻井委員、中野委員、志津委員		
公開・非公開の別	公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
	1 開会 2 委員委嘱 3 市長あいさつ 4 教育長あいさつ 5 委員長・副委員長選出 6 茅野市こども・家庭応援会議の役割について 7 会議事項 (1) 審議会等の会議の公開の確認 (2) 第3次茅野市こども・家庭応援計画の進捗状況について (3) 第一期茅野市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について 8 その他 9 閉会 議事録 1 開会 新型コロナウイルス感染防止のため、会議の時間短縮、挙手による発言等にご協力いただきたい。 2 委員委嘱 机上の委嘱書をもって委嘱にかえる。		
宮下こども係長			
宮下こども係長			

山田教育長	<p>3 教育長あいさつ 教育委員会では、全ての施設において新型コロナの感染防止と熱中症対策を行っている。新型コロナは諏訪圏域がレベル2となっており、予断を許さない状況が続いているが、対策を取りながら、中身の濃い会議となるようご意見をしっかりと伺いたい。</p>
宮下こども係長	<p>4 委員紹介（資料No.1） 事務局からお名前等の紹介をしていく。事務局名簿は資料を参照することで紹介に替える。</p>
宮下こども係長	<p>5 委員長・副委員長選出 委員長と副委員長は委員の中での互選となっているが、どのようにしたらよいか。→意見なし 事務局の腹案として、委員長に山田さん、副委員長に両角さんをお願いしたい。→賛成多数</p>
五味こども課長	<p>6 茅野市こども・家庭応援計画の役割について（資料2） 本会議は、茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例、第23条により設置が定められた会議である。また、この条例は、どんぐりプランを担保するものである。</p>
委員長	<p>質問等あるか。→なし</p>
宮下こども係長	<p>7 会議事項 (1) 審議会等の会議の公開の確認（資料3） 会議の公開に関する要綱第3条、第4条に基づき、会議の公開を行いたい。</p>
委員長	<p>説明のとおり、本会議を公開とすること、議事録を市ホームページで公開すること、公開される議事録の発言者については個人名でなく委員として記載する事としてよいか。→賛成多数 本会議は公開とする。</p>
五味こども課長	<p>(2) 第3次茅野市こども・家庭応援計画の進捗状況について（資料4） 本来であれば計画の進捗状況は関連市民団体の皆さんと一緒にいるところであるが、新型コロナ感染症拡大防止のため、庁内全ての計画について行政側の振り返りを基に進捗確認を行った。今回は、その報告となることをご了解いただきたい。 資料4、各施策等における評価内容と改革改善について、どんぐりプラン22ページの施策体系を参考にしながら報告していく。資料4については、まず3各施策等における評価内容と改善計画を説明し、その後2全</p>

体の進捗状況及び総合評価を説明したい。

区分1から5については「施策目標1まなぶ」となり、子ども達が様々な体験を通じて心と体の成長と確かな学力、生きる力を育むためのものである。1乳幼児期の発育・発達と家庭教育の充実の総合評価では、各種子育て講座の実施について、講座受講が親同士の仲間作りに繋がっているが、参加者の増加が見られないための内容の見直しが課題となっている。今後は周知方法を検討したい。2乳幼児期の保育・教育の充実では、公立保育園、私立保育園、認定こども園へ入所を希望するすべての児童の受け入れができた。幼保小連携については小学1年生の満足度も目標を達成できた。課題として、支援を必要とする子どもの増加や職員採用への応募者の減少等による保育士不足が深刻になってきているため、保育士の働きやすい環境整備や業務の効率化を図っていききたい。3学校教育の充実では、指標である児童生徒の満足度、教職員の時間外勤務の減とともに成果が表れているが、専門家の関わりが必要な子どもも増加しているため、育ちあいのを核とした包括的な支援体制の充実を図っていききたい。あわせて、学校を核としたコミュニティスクールの充実も図っていききたい。4体験機会の充実では、リーダースクラブや単位子ども会育成会の事業により、自ら企画運営できる子どもの育成が出来てきている。しかし、事業への子どもの参加が減ってきていることや、新型コロナウイルス感染防止関連による新しい生活様式への対応等の検討が必要である。5多様な課題に対する取組の充実では、性教育と人権教育を実施している。性教育についてはより広く内容を周知するための見直し、人権教育では心の教育、いじめ防止の教育として学校での取り上げ方に工夫をしていききたい。

区分6、7は「施策目標2支える」となり、子どもの育ちの視点に立って保健・医療・福祉・教育が連携した支援を行うものである。6子ども・家庭への支援の充実では、育ちあいの多職種でのチーム対応により重大事案の未然防止を図っている。課題として、継続支援が必要となるケースの増加に伴う職員体制の充実が必要であるため、体制の整備と関係機関との連携を進めていききたい。7保健・福祉事業の充実では、産婦健診事業の開始や不妊治療の助成上乗せが申請者の増につながった。また、健康づくり推進課と保健福祉サービスセンター間の業務分担を見直し、連携の難しい部分の改善を行った。

区分8、9は「施策目標3つなぐ・つどう」で、地域が協働して子どもへの応援を行うための仕組みや居場所づくりを行うものである。8地域で支える子育て応援の充実では、茅野市型コミュニティスクールでの取組や地区こども館の運営等を行っている。コミュニティスクールについては、既存組織である学校評議員とコミュニティスクールに参画する学校運営委員会との関係が課題であるが、地域と共にある学校づくりを目指すために引き続き活動費の配分による支援を行っていく。9居場所づくりの推進では、茅野市こども館や学童クラブの運営を行っている。学童クラブは4つのクラブが増設され、国の参酌基準に沿った運営を行うことができた。

地区こども館は子どもの放課後の過ごし方の変化によるあり方検討が必要である。

区分10、11、12は「施策目標4ひとそだち」で、子どもと親である大人が共に成長できる学びの機会を提供している。10親育ちの推進では、1日保育士体験や子育て講座等の学びの機会を継続して提供しているが、参加者の減少がみられるため乳幼児健診などの機会をとらえた広報活動を行っていききたい。11子育てを通じて学び・育ち合う環境づくりの推進では、講演会等を開催し地域ぐるみでの子育て環境づくりを進めているが、新型コロナ感染拡大防止のための開催形態等の見直しが必要である。12夢のある子どもの育成では、子ども達自ら考え実践する機会の提供を行っているが、中高生の参加者の減少がみられるため、今後はSNSやリモート会議の活用などを積極的に利用していきたい。

各施策を総合的に鑑み、こども・家庭応援計画の全体の進捗評価は「おおむね順調」とした。特に育ちあいちのを中心とした支援体制が整い、チーム支援が定着してきたことで、個々の事案にスピード感を持った対応ができるようになった。今後の重点施策としては、区分9居場所づくりの推進について、アンケートの実施やコロナ禍での開館について子どもの居場所としてのあり方の検討を進めたい。

資料4-1については、指標数値の特徴的な部分のみ説明していく。3ページ下、教職員の月平均時間外勤務時間の減では、計画当初57時間3分だった指標が目標とした45時間となった。相談窓口の一元化や働き方改革による成果であると考えられる。6ページ下、指標ファミリー・サポート・センターの指標が大きく減少した理由としては、低年齢から保育園に入所させ就労する親の増加や、長期にわたるサポートの終了が考えられる。10ページ、0123広場の市内利用者延べ人数の減少は、新型コロナウイルス感染防止のための休館が要因である。また、CHUKOらんどチノチノの利用者延べ人数の減少については、諏訪市に類似機能を持った施設すわっチャオが開館したことと、新型コロナウイルス感染防止のための休館によるものである。11ページ、1日保育士体験参加率の減少については、父親、母親共に例年参加者が多い3月に新型コロナウイルス感染防止のための参加受入れの停止が大きな要因である。

委員長

意見質問等あるか。

委員

資料4-1 ファミリー・サポート・センター事業の指標の減少に伴う変動要因について、「長期にわたるサポートが終了した」とはどういうことか。

五味こども課長

2018年度まで、特定の家庭で未就園児の預かりサービスの提供を行っていたが、対象の子どもが保育園に入園したことで、その需要が無くなったためのものである。

委員	資料4 地域で支える子育て応援の充実について、改革改善の具体的内容の中でコミュニティスクールの委員のボランティア保険を支援するとあるが、委員以外でも学校の活動に協力している人たちはたくさんいる。その人たちへの保険料の負担はしているのか。
五味学校教育課長	コミュニティスクール学校運営委員会の委員のみを対象としている。
委員	学校運営委員会の委員は定員があるのか。
五味学校教育課長	定員はなく、各学校の特色を活かして任命している。
委員	資料4-1利用者延べ人数（こども館 CHUKO らんどチノチノ）の利用者数について、指標の人数の変動だけにとらわれず設置当初の願いを忘れずに運営して欲しい。
委員	指標全体について新型コロナの影響が見えている。この指標は、年度末までのものか。
五味こども課長	今回は年度末までの資料を基に評価をしている。新型コロナの影響はずっと続いているので、本年度の評価を行う時にも考慮が必要だと考えている。
柳澤幼児教育課長	<p>(3) 第一期茅野市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（資料5）</p> <p>今回の会議では、どんぐりプラン66ページに掲載されている第一期茅野市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、昨年度の実績を報告する。計画期間が平成31年度までとなっていることから、令和2年度からは第二期計画を推進していく。</p> <p>資料5、1ページ、3事業計画（2）幼児期の学校教育・保育の量の見込みと確保対策については、まず、資料5の指標の用語について説明する。「量の見込み」とは、就学前こどものうち、教育・保育を必要とするもしくは希望するこどもの数でニーズ調査等により算出された施設等の利用希望数、「確保対策」は受け入れ施設側の提供体制で定員等を表している。ここでは、既存の保育園、幼稚園等の教育保育施設で全員の受け入れが可能となっている。施設として希望者全員の入所が可能であるが、保育士の安定的な確保が必要である。また、平成29年度からよこうち保育園がよこうち認定こども園に、令和2年度から聖母幼稚園が認定こども園に移行している。</p> <p>(3) 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保対策について、①時間外保育事業の午後7時まで実施する箇所は現在6か所で、ここ2年</p>

ほどは利用者数がほぼ横ばいとなっている。午後6時30分まで実施する箇所は9か所となっているが、利用者数は増加傾向にある。

②放課後児童健全育成事業は学童クラブのことで、低学年の利用学童数はほぼ横ばい状態で推移しているが、令和元年度は新型コロナウイルス感染予防のため利用実児童数が減少している。高学年では、利用対象児童を家庭のニーズに応える形で高学年まで拡大したことにより平成30年までは利用者が増加してきたが、令和元年は新型コロナウイルス感染予防のため実児童数が減少している。

③子育て短期支援事業は、家庭での養育が一時的に困難になった児童を児童養護施設等に入所させ必要な保護を行うものだが、令和元年度は利用希望がなかった。制度の周知と希望に沿った利用ができるよう委託施設を増やしていきたい。

④地域子育て支援拠点事業は、乳幼児やその保護者が交流や相談等を受ける事業である。保護者が子育てに関して不安を抱えている状況があるため丁寧な関わりと話しやすい環境づくりが必要である。令和元年度の利用者数は増加している。

⑤一時預かりは、家庭での保育が一時的に困難になった乳幼児を、保育園や幼稚園、認定こども園、その他の場所で保護する事業である。幼稚園における一時預かりは、幼稚園在園児を対象として実施しており、入所者数は減少傾向にあるが、利用者は増加している。保育園における一時預かりは、中大塩保育園のリノベーションのため湖東と小泉保育園の2園で定員枠を増やして受入体制を維持したが、前年度に比べて利用者の減となっている。

⑥病児病後児保育は、児童が病気や病気回復期に医療機関に併設した「おやすみ館」で預かり保育を行う事業である。実利用者はほぼ同数で推移してきたが、平成30年度から減少となっている。また、平成31年度まで塚田医院に委託していたが、令和2年度からは市の直営施設とし、移行後は開所時間や対象年齢の引き上げを行った。

⑦子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）は、子育ての支援を受けたい人で行いたい人が会員登録し活動する助け合い事業である。平成28年度から社会福祉協議会へ事業委託していたが、令和元年から市こども課での直営事業となった。社会情勢に応じて活動内容も拡大する事から、援助を行う会員数の増、質の維持向上につとめ、子育て世帯が安心して仕事及び子育てができる環境づくりを支援していく。

⑧妊婦に対して健康診査を実施する事業（妊婦健診）は、妊婦の健康の保持と増進を図るための事業である。母子手帳交付に説明し、医療機関において実施している。

⑨乳児家庭全戸訪問事業は、生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、情報提供や相談を行う事業である。市内4エリアの保健福祉サービスセンターで実施している。令和2年度からは、健康づくり推進課で実施している。

⑩養育支援訪問事業は、養育支援が特に必要な家庭に対して、指導助言を行いながら適切な養育の実施を確保する事業である。保健福祉サービスセンター、こども課、発達支援センターで実施している。

⑪利用者支援事業は、子どもや保護者の身近な場所で子育て支援事業等の情報提供や相談を行いながら、関係機関との連絡調整を行う事業である。こども課が窓口となり、情報発信や相談窓口としての必要な支援を行う基本型と、健康づくり推進課が窓口となり妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援体制を整える母子保健型を実施し、連携して継続支援を行っている。

⑫実費徴収に係る補足給付を行う事業は、保護者の世帯所得状況を勘案し、特定教育・保育施設等に対して日用品や文房具等の必要な物品や参加費等の費用を助成するものである。平成29年から事業を開始し、令和元年度は5世帯に対して給付を行った。

⑬多様な主体の参入促進事業は、保育園等への民間事業者の参入の促進に関する調査研究や事業者の能力を活用した施設等の設置や運営を促進するための事業である。乳児期の学校教育・保育の提供は既存の施設での提供が可能となっているため、今後も今ある施設を最大限に活用していきたい。

委員長

意見質問等あるか。

委員

幼稚園、保育園、認定こども園の違いを教えて欲しい。

柳澤幼児教育課長

幼稚園は教育を行う施設であり、保育園は保育を必要としている子どもを受け入れる施設、認定こども園はその両方の特徴を持った施設である。例えば、保育園は0歳児からの受入れを行っているが、幼稚園は受入れがない。認定こども園は教育プログラムに加えて0歳からの受入れもできるという特徴がある。

委員

どんぐりプランは、障害のある子どもについての柱がなく、広い意味で普通の子ども達を対象としている。障害を持つ子どもについて個々の対応は文面から対応していることが分かるが、発達障害等、障害の枠が広がっていく中でプランにおいても大きな課題として考えてほしい。

有賀こども部長

個々の事業の中で行っているのので、どんぐりプランの中間見直しの際に検討していきたい。

委員

岡谷市では熱中症対策として、暑さ指数によっては保護者の迎えが必要である。茅野市では同様な対応をしているのか、また、熱中症に対してどのような対策をとっているのか。

五味学校教育課長	市統一の対策はとっていない。各学校で必要に応じて対処している。
委員	今後の会議予定を教えて欲しい。 会議資料は事前送付してほしい。
五味子ども課長	年度内の会議開催は予定していない。 本会議はプランの進捗状況を検討する場であるため事前送付が必須だと思っている。本年は新型コロナの影響で進捗状況のみの報告となった。今後、資料については善処したい。
委員	CHUKO らんどチノチノのことを一部の子ども達しか知らない。内覧等、周知をしてはどうか。 学童クラブの増設のため、指導員の確保を行っていくとのことだが、地区子ども館の職員の増員は検討しないのか。
五味子ども課長	CHUKO らんどチノチノについては、中学校に出向いての周知を行っている。より施設を知ってもらうための検討は随時行っていきたい。 地区子ども館は、子どもの預かりを行う場ではなく、本のある屋根付き公園として設置されているため、職員の増員は考えていない。学童クラブとの違いを明確にしながら利用してほしい。
委員	どんぐりプランは、たくましく・やさしい・夢のある子どもを育てるための計画で、市民と行政とが協働で取り組んでいる。今回の会議等で多くの市民の声を聞きながら、どんな未来を描いて子どもの成長を支えていくのか、プランの見直し等も含めて常に考えていきたい。
有賀子ども部長	市では子育てだけにとどまらず、若者に選ばれるまちという視点をもって事業を進めている。子どもが育ち、まちも育っていくような計画となるよう、お互いに協力していきたい。
委員	障害児を持つ親の会の会長を務めているが、以前、高校生から会の手伝いをしたいとの申し出があったことがある。大人はどうしたら子どもが育つか心配ばかりしているが、優しい子どもは育っていると感じている。
委員長	8 その他 事務局、委員からなにかあるか。→なし
副委員長	9 閉会
	終了 20 時 20 分